

先日、日本語学校静岡校のスピーチコンテストに出席しました。参加した学生たちはそれぞれ日ごろの成果を発揮し良いパフォーマンスをしていましたが、その中に残念ながら表彰から漏れてしまったけれど実にウィットに富んだ楽しい作品を発見しました。皆さんにぜひご紹介をしたいと思います。インドのプラビーン・ネギさんの作品です。

かねがね、留学生のスピーチの内容には一言申したい気持ちを抱いていました。情報がいくらでも得られる昨今、どこまでが自分のオリジナルなのか、それとも他人から拝借したものか判別できないものが増えています。「言いたいこと」と「言えること」が異なる場合、その差を埋めるには一工夫が必要です。

やはり自分の言葉を使って、自分なりの主張が力強く表現されていることがスピーチでは最も大切です。自分の実際の経験に基づくこと、着眼点の面白さ、前向きなメッセージが込められていることなどが私の望みたいところです。

ネギさんの作品には、まず自分の経験に基づいている、若者らしい等身大の内容、着眼点のおもしろさ、そして何よりこれからも日本人や日本文化への理解を深めたいという好意的、前向きな気持ちにあふれているところです。残念ながら賞にはもれましたが、ネギさんの発想力に拍手を送りたいと思います！！

「温泉と日本人」

Bクラス プラビーン・ネギ

留学生のみなさん、日本で温泉に入ったことがありますか。

私のふるさとも温泉があるので、いいイメージがあり、私はワクワクして休みの日に温泉に行きました。入ってみてびっくりしたことは、日本人はみな入ってすぐ裸になっているではないですか！上も下も全部です！

私のふるさとでは温泉に入る時は必ず水着を着用します。

この状況を見て私はパニックになりました。この光景を私は今も忘れることができません。私の中の日本人は何でもはずかしがるイメージでした。しかし、みんなはずかしそうな様子はありませんでした。そんなことを見て、日本人は自分の中のことを見せるのは、案外平気なのかと思うようになりました。

しかし、ある日、反対のことが起こりました。

私は居酒屋でお皿を洗うアルバイトをしています。私はお皿を洗う機械の水を抜き忘れてしまいました。店長が私に注意する時のいい方が怒っている感じてましたが、顔は笑顔でした。私は店長が怒っているのか、そうではないのか、わからなくて頭が混乱しました。

私はふと温泉のことを思い出しました。温泉では裸になって自分を見せるのははずかしく感じないのに、なぜ店長は心にいっぱい服を着ているのだろうと不思議でした。

確かに、はっきり心の中を見せると相手の気持ちは悪くなることもあるでしょう。

しかし、私たち留学生にとっては、日本人がみな心に服を着ていると、何が言いたいのかかわりにくく、気が付かないうちにお互いイヤな気分になってしまうかもしれません。

心に服を着なければならぬ日本人をもっと理解するために、私はこれからも温泉に通うつもりです。温泉に行くと声をかけてくれる日本人も増えてきました。そんな日本人と温泉につかって話す時、みんな本音で話をしてくれるような気がします。

「日本人はいつも心に服を着ているのだから、せめて温泉くらいはみんなの前でも裸になって心を軽くしたいのかな」と思っています。

そんな私もいつの間にか、温泉で裸になることに慣れてきました。日本人の裸の心に一步近づいている証拠なのかもしれません。

ご清聴、ありがとうございました。



皆さん、いかがでしたでしょうか。ネギさんがこれからも銭湯に通い日本人との裸の付き合いを通して、もっと日本人を理解してくれるよう願っています。
(理事長 袴田 靖子)